

脇田会長退任挨拶

謹啓

会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は日本赤十字社臨床工学技士会活動に対しましてご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。今期をもって会長退任となりますのでご挨拶をさせていただきます。

私は平成29年(2017年)5月から第5期、第6期、第7期の3期6年にわたり会長を務めさせていただきました。任期の半分近くはコロナ禍に翻弄され、思うような活動を展開することができず、歯痒い思いでありました。そのような状況の中でも皆様とつながっていることをアピールするためにメーリングリストでの発信やZoomを利用した研修会を中心に皆様へアプローチするように心掛けてはいましたが、やはり対面で「同じ釜の飯を喰う仲間」と顔を合わせて知恵を出し合い、大いに討論し、盃を交わしてより強い絆を深めるという本来の活動の機会が奪われてしまったことは残念でなりません。



旭川赤十字病院
脇田 邦彦 会長

私がいつも考えていたことは、他の組織の臨床工学技士よりも一段上の仕事ができるように臨床工学関連業務の高いレベルでの標準化を図り、当会のポリシーである「赤十字のエンブレムに誇りと絆とプライド」を持って活動することでした。これができたかどうかは皆様が評価するところです。不完全燃焼という気持ちですがやれることはやったと思うしかありません。まずは今までご理解とご協力をいただいた皆様には心より感謝を申し上げます。

さて、令和4年10月に行われた第8期役員選出選挙において新しい役員が選出されました。第7期までは立候補者が定員に達せず、選挙にはなりませんでしたが今回は初めて投票が行われ本来の選挙という形になりました。これは当会運営に興味を持っていただいている方が増えたということで良い傾向だと思っております。しかし、私の本音は、志のある仲間には全員役員になっていただいてご尽力をいただきたいと思っております。

その後、令和5年1月に横浜で開催されました令和4年度第一回常任理事会において第8期役員の中、会長、副会長選出と常任理事の役割分担が決定したことは既に皆様へ報告しております。次期の第8期会長は横浜市立みなと赤十字病院 臨床工学部 技師長の皆川 宗輝氏に担っていただくことになりました。皆川氏は当会発足当初から会の要職である事務局長を長きにわたり務められ、当会のすべてを把握している方です。私も皆川事務局長とは密に連絡を取り合いながら会の運営を進めてきました。安心して後を任せられる人材であることは間違いありません。そして好井副会長、開副会長は留任、新しい副会長には石巻赤十字病院 医療技術部 臨床工学技術課長の熊谷 一治氏、新事務局長には旭川赤十字病院 医療技術部 臨床工学技師長の陶山 真一氏に担っていただくことになりました。私と鎌田副会長、高木監事、三井監事は退任することになります。お三方にはこの場をお借りして今までのご尽力に感謝を申し上げます。

当会の歴史を振り返りますと2009年4月に我々の先輩達を中心となって「同じ赤十字の釜の飯を喰う仲間であつたらうや!」という強い志と、本社から「他の医療技術職は本社認定の組織があるにもかかわらず、臨床工学技士はいまだにない」との指摘、さらに本社とのパイプを持つ先輩が臨床工学技士待遇改善のために本社にもものを申しても、「赤十字の臨床工学技士はまとまっていないから臨床工学技士の総意とは受け取れない」などの厳しいご指摘もあり、先輩諸氏のご尽力のお陰で日本赤十字社臨床工学技士会が発足したわけです。

初代会長は当時日本赤十字社医療センター医療技術部 臨床工学第2課長の齋藤 郁郎氏が務められ、全国研修会やブロック研修会などの現在の活動が軌道に乗りました。そして忘れてはならない東日本大震災での石巻赤十字病院への業務支援を通して「赤十字臨床工学技士の顔の見える関係」が何よりも貴重なものだということを学ばせていただきました。

被災地で困窮している我々の仲間を何とかして助けたいという強い志を胸に、全国の赤十字病院の仲間達と同じ救護服をまとって結集し、入れ替わり立ち替わり支援活動を行ったことは日本赤十字社臨床工学技士会の「絆」をより一層強めるものとなりました。私たちはあの「3.11」を忘れてはなりません。

そして2代目会長は、当時秋田赤十字病院の医療技術部 技師長の熊谷 誠氏が3期6年を務められ、独立し切れていなかった臨床工学部門の独立が加速され、技師長職も実現しました。これは当会から本社幹部に何度も働きかけてご理解をいただき、本社から全国赤十字病院 院長連盟へ起案していただき、一度目は承認されず、二度目でようやく承認された経緯があり、決して簡単に実現したことはありません。もちろん今まで地道に頑張ってきた皆さまの日々の努力があったからこそ成し得たことですが、何よりも日本赤十字社臨床工学技士会としてまとまっていなければ実現できなかったことは明かで「まとまることは力になる」ことの証明であるわけです。重ね重ね申しますが、赤十字臨床工学技士がひとつにまとまっていることが「我々の有形無形の力」となり、良くも悪くもこれから発生するであろうあらゆる出来事を推し進めたり解決したりする原動力になることは間違いありません。

当会のメンバーをみますと私よりも遥かに能力が高く、全国的にも有名な方々が大勢います。地方技士会の会長や理事を務められている方も複数いらっしゃいます。そのような優秀な方々が赤十字の仲間としてたくさんいることは我々の「強み」でもあります。全国研修会やブロック研修会では他では学べないようなことが学べる貴重な機会となっていることは参加された皆さまが感じていることだと思います。これからもどうか「同じ釜の飯を食う仲間」という心意気を持ち続けてほしいと願っております。

本社とは引き続き、臨床工学技士の存在価値を高めることを目指し、医療安全、共同購入、チーム医療推進などの分野においてうまく連携を取りながら存在価値を示していただきたいと思います。役員だけではなく会員の皆さまにも持っている能力を惜しみなく提供していただき、当会のレベルアップのためにお力を貸していただければ幸いに思います。

私は日本赤十字社の職員であることにプライドを持って頑張ってきたつもりです。赤十字仲間の皆さんと一緒に仕事ができる本当に良かったと思っております。

結びになりますが、会員皆さまの益々のご健勝とご活躍、そして日本赤十字社、日本赤十字社臨床工学技士会の益々の発展をご祈念申し上げ、会長退任の挨拶とさせていただきます。これまで本当にありがとうございました。

敬具